

令和7年度第1回 明石市文化財保存活用協議会議事概要

I. 日 時：令和7年8月26日（火）14:00～16:00

II. 場 所：明石市立文化博物館 2階大会議室

III. 出席者

区分 (法第183条第2項)	氏名	所属・役職	備考
学識経験者（第4号）	村上 裕道	元京都橘大学教授・文化財保全学	会長
	森本 真一	神戸学院大学教職サポート室・地理学	副会長
明石市（第1号）	吉野 恭子	明石市市民生活局長	委員
兵庫県（第2号）	服部 寛	兵庫県教育委員会文化財課長	委員
文化財所有者（第4号）	西海 庸就	住吉神社禰宜	委員
観光関係団体（第4号）	加藤 久貴	明石観光協会専務理事兼事務局長	委員
その他教育委員会が必要と認める者（第4号）	藤本 庸文	明石の布団太鼓プロジェクト代表	委員
オブザーバー	山下 史朗	兵庫県立兵庫津ミュージアム館長	

事務局：明石市市民生活局文化・スポーツ室

（中田章雄文化・スポーツ室長、池田一峰歴史文化財担当課長、

田川聰司歴史文化財担当係長、原口聰歴史文化財担当主任、

稻原昭嘉歴史文化財担当再任用職員）

明石観光協会（木村公輔事務局次長）

明石市都市局都市整備室調整担当（西田考樹課長）

明石市教育委員会学校教育課（和田徳幸課長）

IV. 資料

- ・2025年度第1回明石市文化財保存活用協議会次第
- ・明石市文化財保存活用地域計画（資料2）
- ・あかし歴史のまち「文化財ウォーク」
- ・明石焼きえんむすび
- ・企画展明石藩の世界13 明石で華ひらく知と美の世界（チラシ）
- ・石器展（チラシ）

V. 議事概要

1. 開会

会長・副会長の選任

村上委員を会長、森本委員を副会長に選任

2. 議事

【議事（1）明石市文化財保存活用地域計画に基づく2024年度の実績及び2025年度の予定について】

山下オブザーバー：市史関係は今年度に全部発行されるのか。

池田課長：今、準備を進めている。合計3冊発行予定である。1巻は10月中、2巻は3月を目標、3巻はできれば今年度中に発行したいが、来年になる可能性もある。

山下オブザーバー：熱心に編纂されていて、いろんな先生方が関わられているというのも十分承知している。大変だと思うが頑張っていただきたい。私が興味をもったのは、文化財ウォークマップとか、いろんなまち歩きもされているが、大蔵谷の西国街道いうとその先がある。私も兵庫津ミュージアムにいるので、例えば神戸事件っていうのが慶應5年の1月11日に発生している。その時に備前藩兵がこの大蔵谷宿に宿泊をしてミュージアムの近くの西国街道を通っている。実はその兵庫津ミュージアムが今建っている場所っていうのが備前藩の常宿の浜本陣跡である。まさしく、ミュージアムのところで昼食休憩をとったあと元町で外国人への発砲事件が発生した。新政府にとって最初の外国問題がここで起こっている。大蔵谷との関係をすごく身近に感じている。なんでそういうことがあったかというのは、本来だったら大蔵谷から西国街道を通らずに徳川道というのがあって、そこを迂回して、神戸を通り過ぎてから六甲山を越えてから行くっていう想定路が整備されている。そういう特殊な場所なので、つなげてリレー式に兵庫津ミュージアムでもできればと思いついた。そうすれば大蔵谷宿が表に出てきて、他との関係を見るともっと面白くなってくる。

村上会長：一緒にやればいい。

池田課長：11月9日を予定している。

村上会長：また会議後に詳細について話していただければと思います。

吉野委員：重点区域の1番の文化財ウォークマップを学校の研修資料として配布ということで、今年度の配布予定があるが、実際に使われて中学生の子が歴史にふれる機会があるのか教えてほしい。

原口主任：このあかし歴史のまち文化財ウォークのマップは右上のところに明石市文化財保存活用地域計画2024となっているが、これ以前に2022と2023があり、これで3件目である。来年度も2025ができる。配布して児童やその観光も幅広く活用できる。さらに森本副会長にもご相談しながら学校教育の中で実際に活用して歩いてみる取り組みも今後進めていく必要性があると考えている。

吉野委員：森本副会長に協力いただきながらということだったが、本当に中学生って多感な時期で、すごくいいなと思うが、表記に漢字が多くて、中学生の興味を持ってもらえるか、ぜひ体感できるような仕掛けもあればと感じた。

村上会長：このマップは重点区域だけだけれども、ある程度重点区域が終わったら、行政区を念頭に、各中学校区単位にウォークマップが拡大するようお願いします。ウォーキングを実施なさっている森本先生の展開がより顕著になりますでしょう。また、各中学校区でも同じくウォーキングを望んでおられる先生がいらっしゃると思います。長期的には全体に拡大するイメージをもちながら考えてほしい。

加藤委員：事務局の説明の補足で基本方針1-5の食文化の魅力発信というところで明石焼縁結びというパンフレットを新たに作成した。以前も明石焼のパンフレットがあったが、今回8年ぶりに、全面リニューアルということで作った。従来A4版と少し大きめだったが、持ち運びしやすいB5版の冊子にサイズもコンパクトにして改訂した。明石焼のQ&A、明石市内のお店のリスト、最後のページには、自宅で明石焼を作るレシピも掲載している。今回のマップの一番大きな特徴は、各明石焼のお店をまわり、スタンドシールというのをもらえるというシステムを入れている。これでいろんな明石焼のお店を巡れるようにしている。この手の観光パンフレットは、すぐ捨てられてしまったりということも多いが、こういうかたちにすることでおわゆる御朱印帳ではないが、自分だけのオリジナルのマップが作れる仕掛けづくりもしている。

村上会長：この冊子を見ながら私も食べたい。スタンプを全部集めたら何か景品が出ますか。

加藤委員：その質問はよくあるが、特に特典はない。

村上会長：明石焼を全部食べたら、特典で何とか博士という称号をもらえるとか、また、メダルや缶バッヂ等、何かありましたら面白いですね。多分みんな喜んでまわると思う。文化財ウォークのマップは、ホームページに掲載さ

れていますか。

原口主任：まだ掲載されていない。今後は掲載を前提にしたかたちでつくっていく必要もある。OCRで読み取れるといった方向性も考えている。

村上会長：明石市内の文化財はホームページに全部掲載されていますよね。この地域計画を浸透させる意味でも、地域計画に基づく各種施策を掲載していくよう、作戦的に考えてほしい。

森本副会長：基本方針2の取組みを紹介する。出前授業で今年は戦後80年で、空襲のことを二見小学校で話をする予定である。6年生の修学旅行に行く前の事前学習も兼ねて、広島だけでなく明石も空襲はあったという話をする。昨日打ち合わせに行つた。それから、毎年、小学校の社会科担当の先生が中心だが明石の地域をまわっている。今年は、魚住の方のため池、17号池を中心に案内をした。8月4日の暑い日だった。来年で辞めようかと思っている。若い先生ばかりで私は倒れそうになった。2時間程度まわっている。その中で20何名のうち明石出身の先生は5、6人しかいない。他市出身の人が多くて、明石のことを知りたいといったことがかなり出てきた。できる限りこういったことは続けていくのが大事と思っている。先ほど吉野委員からもお話をあったが、中学校でも地域の教材を授業の中に入れていくという動きがある。なかなか、中学校のほうは難しいが、こういったパンフレットができれば、大蔵地区だけではなく中部とか西部の地域の学習に入れていく。

西海委員：神社では小学校で神社の研究で聞かれるが、先ほどのお話にあったように資料があれば、もっと活用できる。以前に、西国街道に関する資料があつて神社に置いて活用できた。そうしたものがあれば小学校に限らず、来られる方も、興味をもつて、つながるというか、神社に来られた方は、ぼたん寺とか、茨木酒造とか、江井ヶ島酒造とか、そういうところに行つたり、逆に、他のところに行かれた時に、神社に来てもらつたりとか、つながりができるような資料があればいい。

藤本委員：今日もたくさん言うことが多くあるが、まずは森本先生関係で言うと小学校の子どもは、家と学校の往復で地域のことは何も知らないので教えてください、ということで、まずは知ってる限り教えている。最初に先生に教えてほしいということで、今年度3回行った。時間が非常に制約されていて大体1時間で今後も続けたいと思っている。中学校はトライやる・ウィークで20年以上、事業所のお休みの日の対応でお勤めして、月曜日が多いが、それも最近はうちの地域は、ハザードマップを見てもわかるように防災の方が非常に危ない地域である。歴史やいろんなことの話の中に防災も組み入れて話をした。明石焼縁結びを拝見したが、実は私がいつも行っている場所は載っていないのだが。

加藤委員：基本的には観光協会の会員になっているお店を掲載している。

藤本委員：わかりました。それと布団太鼓関係で、配布資料のカラー写真に愛媛県西条市の西条祭りがある。友達に今年見に来てくださいと言われている。西日本の中では特に有名な祭で、だんじりが80台くらい出る。市の観光にも多分寄与していると思うのでその辺も関係も見てきたい。あかし文化財ウォークのこの地図で明石城の外堀の特に、国道南の外堀のところは、わかりにくいか、特に西側のJRから北のところが、そのまま道になっている。今もそのまま現状同じで、それに関して看板の一つもない。マップを持って歩かれる方は、まったくわからないのでは。このマップをもっと活用すればいい。これは県が関連するから難しいのかもしれないが、西の広場、芝生広場のところ、特に御殿跡や内堀の跡も結構あるのに芝生だけで一切ない。非常に寂しい。いろんな計画の中に出ているが千石堀がもう荒れ放題で手を一切加えられてられていない。これは、市長の影響があるのかどうかわからないが。もっと整備してジャングルみたいになっていてゴミも捨てられている。この明石城の三番水位のちょうど真ん中で、結構見られる場所だが、あのままだったら木は伐採していない。もっと活用すればいいと思う。吉野局長から市長に進言していただきたい。自然環境とはまた別の意味で文化財なので、その辺もきちと取り組んでいただきたい。自然環境だけをまあ保護するのではなく、そういうことも保護していただきたい。それと明石は白砂青松で、いわゆる砂浜と松が有名である。明石では魚住の住吉神社は特に有名である。ここをずっと歩いているが藤江地区に龍泉寺というお寺がある。そこの松が100年以上ですけど、非常に綺麗に剪定されている。そのお寺から淡路も海も見える。もっと宣伝したらよいと思うが、その辺が全く出てこない。あの別に固有名詞の松でもないが、龍泉寺の松の景観は気になった。もっと活用すればいいと思っているが、一切出てこない。皆さんにも見ていただきたい。

服部委員：2点確認したい。3ページの11番、歴史コーディネーターの育成で、育成コーディネーターの数が必要になっている。実績はボランティアの育成になっている。この育成コーディネーター数とボランティアの数は同じか。

原口主任：こちらは例年、文化博物館の企画展のボランティアで関わっていただいた方を期間中のコーディネーター数ということで把握している。

服部委員：同じことだということで理解した。事業内容は小学校における体験授業の確保と書いてある。実際に学校に行つたりはされてないということで、将来的にはどうか。

原口主任：この文化博物館のボランティアの方で将来的に小中学校における体験授業の人材として活躍いただければという評価にしている。

服部委員：もう 1 個教えて欲しい。5 ページの重点の 10 番の明石歴史文化クリエイティブ事業の支援だが、クリエイティブ事業とはどんなものなのか教えて欲しい。

原口主任：この事業の 10 番は明石型生船の調査、研究などがある。明石で明治時代以後、中部幾次郎という鮮魚運搬業の大洋漁業の創業者が明石型生船という発造機をつけた鮮魚運搬船を考え出した。生船研究会という団体と連携して明石型生船の歴史を調査し、発信する事業に取り組んでいる。一昨年に材木町の安藤家でこの明石型生船に関する展示もしている。民間団体との共同活動を明石歴史クリエイティブ事業ということで一部は文化庁から補助も受けてそういった名称で進めている。

服部委員：明石の生船の調査と安藤家の活用とがなされられているということか。

原口主任：今のところ、この生船の調査と安藤家の活用がメインになっている。こちらは、この課題 5 の体制づくりで、この重点部会で事業の内容を協議しながら進めている。生船研究会や市民図書館、その他の団体も含めて協議している。その中で事業の内容を新たに付け加えていくところも出てくると思っている。

服部委員：民間との連携ということで、どんどん広げていっていただければいいと思う。

村上会長：明石市の地域計画に記載する民間活動支援について、文化庁の民間活動支援策と連動させながら、活動を拡大できるよう知恵を絞っている。国庫申請できるよう、実際の活動支援策と要項内対象のすり合わせを行えるような検討会を地元の人とつくっているのが明石市のセールスポイントと思う。県の方からの助言ならびに支援できるようなことがあれば、機会を得て伝えていただきたい。

【議事（2）明石市文化財保存活用地域計画の改定について】

村上会長：最初に確認させてほしい。この 3 年の前半期間において、KPI が未達になるものがあるか。

原口主任：この施策展開に向けた、KPI は当初の計画では赤字の部分 20 から 24、29 から 33 については当初は設定されていなかった。また 8 ページにもそうした項目がある。藤本委員からも話があったが特に 18 番の明石城については所有が兵庫県であり明石市としての立場で施策として可能な部分と難しい部分がある。この施策展開はご議論をいただいて設定したものなので 2030 年度まで頑張って進めていきたいと考えている。

村上会長：18 番以外には予定から大きく逸脱したようなものはないと認識してよいか。

池田課長：例えば 31 番。たこバス等の公共交通利用を含め、東西周遊ルートの設定などを進めるとともに、明石駅周辺に大型バス乗車、乗降車場所を検討するとか、なかなか文化財だけの力では、難しいところもある。その下 32 番。歴史文化財周辺の駐車場整備や幅員の狭い道路での自転車利用の誘導などのハード、ソフトの環境整備を進める、33 番。先端技術活用による情報発信などは非常にお金もかかるので予算面でどうしようかというのが正直なところ。

村上会長：了解しました。当初の想定外で、どのように表現すればよいか難しいということであれば、変更をいつするか、今とすれば、22 年度から始まって 25 年度前半の 4 カ年と 26 年度から 30 年度までの後半の 5 カ年。そういう考え方でよいか。そうすると、チャンスとしては 26 年度夏の会議あたりか、25 年度の年度末にもう 1 回入れるかで、時期を事務局で調整して欲しい。KPI 設定を協議して、後半戦に向けて修正しましたという話にするか、未達の状況がそう大きくなさうなので 30 年度の第 2 ラウンドの時に軽微な変更調整とするか、その辺を事務局の方で基本的な案を出して皆さんと協議できれば計画的な整合性が取れると思う。事務局でスムーズな展開になるよう心にとどめておいて欲しい。

それでは、各自質問など、発言を求めます。

服部課長：改定作業というところで、兵庫県の現在の策定状況のことを話したい。まずこの 7 月 18 日に多可町が新たに認定されている。兵庫県内の 41 市町中 13 市町で文化財活用地域計画が認定されている。兵庫県は 13 件で全国最多の状況となっている。令和元年から文化財保存活用地域計画が設定されていて改定見直しが今始まっている。全国的には、この 7 月に札幌市が見直しをして、2 回目の認定を受けている。兵庫県は 12 市町あるうち、香美町が改定に向けて動いている。7 月に神河町で協議会があり、そこでは令和元年につくったときは、ちょうどコロナの時期だったので外国人や観光の関係の指標などが逆に漏れている、というところで、見直す必要を協議した。明石市も令和 3 年当時はなかった指標、条件があるかなと思うので、見直しを考慮すべき思っている。

藤本委員：私だけが、普通の一般の市民だと思うと思うが、前段で森本先生が言われたように空襲で明石はかなり痛められている。私の関係であれば布団太鼓が、林の川崎航空機にあり、その関係で、残りの爆弾も林の町に重点的に落とされて 7 台、8 台だったか、和坂は少し離れたているけれども、その中で残っていたのが 2、3 台ということで壊滅的な被害を受けた。その辺もちょっと今調べている。太鼓蔵があった場所は必ず空き地になっている。妙に。駐車場とか、建物は建てない。その辺も含めてまた日清、日露の戦争の時に、旧の明石郡だけれども神戸の方の布団太鼓は遺産というか、その 1 台を今年調べに行った。神戸市北区の淡河の太鼓で布団が 3

枚で、彫り物、彫刻がある。その裏面にはここでしたら姫路とか淡路、大阪の彫物師が多いのだが、材木町のたちばなまさよしとかいう墨書き名があった。それでその辺を探したら、今の酒屋だな、思いながらも、明石の彫師が出てくるのはそこだけである。地域も一緒に見直して色々調べており、要らんないのであれば持って帰ろうかなと思ったが。大蔵谷の今、そこに置いてあるのも、色々調べていったら、やっぱりああいう漁村にあるものではない。やっぱり城下町の浜光明寺の前に昔はしばやまちという町があった。そこが持っていた太鼓である。淡路の松穂にも立派な布団太鼓があり、昨年の企画展で出していたが、それもかなり前に長老が長老から聞いたら、それは明石の港から運んできたと。これは小さい漁村だが、そういうところにあるものではないなということで、明石の城下町がかなり関連しているのではないかと、そういうこともちょっと調べた。だけど、同級生は 750 人いたけれども、文献とか写真がほとんどない。それでそういうのもいろいろ調べているが、徐々に解明されたらいいなと思いながら、今、活動している。

西海委員：先ほどの自転車利用の推進とか、やはり海側の方に住んでいるものとすると、どうしても車の利用というのが難しいパターンも結構あるので、自転車でいろんな文化財とかそういうところをまわされたら、かなり魅力的なところもある。八木の住吉神社もあるが、私の方は魚住だが、こちらに来られてその SNS で出回っている写真を見て、ここからの風景はどこですかという話でうちに間違って来るパターンも結構ある。ただ八木住吉神社は普段神主さんもいらっしゃらない。どなたもいらっしゃらないので、なかなか車を止める場所とかもない。ただ自転車とかで行けると浜の散歩道とかそういうのを利用して、結構来られるパターンも増えてくるんじゃないかなと。増えるといろんな課題が出てくるとは思うが、そういう自転車の活用もできたらいいなと思う。

森本副会長：私の方は 3 点、お願いとか考えていただいたらいいかなということがある。一つ目は、以前に新しい市史が出た段階で、中学校の副読本も考えてはどうか、という話があったと思う。市史が出来るようになってきたので、中学校の先生方、あるいはいろんな方に入っていただいて、中学校の副読本、歴史中心の副読本を期間中につくっていただいたらありがたいなと思う。例として、姫路の中学校の方でできている。市販もされている。カラーでよくできている。それは結局、学校だけでなく地域、姫路の市内の地域、市民の方もしっかり読んでいるということがある。『わたしたちの明石』の小学校もあるが、中学校版も考えていただきたいということが一つである。二つ目は、看板のところで、先ほども藤本委員がいわれたが、いろんなところでいろんな看板ができてきている。私は今、魚住のまち協に関わっており、今年で 9 つ目になるが自分たちで看板をつくっている。それ以外に、いなみ野ため池ミュージアムが作成した看板もある。高丘の古窯群の看板もたくさんできているが、それを一つにまとめるのも大事と思っている。三つ目で、これは以前も言ったが明石の駅前のすぐ南側の地図に外堀がない。今日のパンフレットの中にも外堀が書いてあるが、僕の友達がよく来るが明石の堀、これだけ？と言われる。外堀が地図に入ったら明石城は本当に大きなお城だったということがわかる。ぜひ明石市の観光協会がどこかと連携されまして、明石市の駅前の地図の中にお城の外堀を入れていただいて、今日配布されましたパンフレットの中に入っていますけれども、そういうのを入れていただけたらなと思っている。よろしくお願いしたい。

村上会長：私からも希望を述べさせて欲しい。18 番、史跡明石城跡の保存活用整備について、県公園協会が事務局になって活用に関する委員会を開いている。そこでは、県立大学の高田先生がコーディネーターになって、市民の方々の要望調整をする熟議なる会を開催している。市長も市民からの要望のくみ上げの状況をよくご存知である。先ほど藤本委員が言われたように、活用の熟議にはいろんな立場の方々が来ている。それぞれの分野の方々の要望を高田先生がコーディネートし、さらに、その要望を活用の委員会に諮るようにしている。18 番に関してもハードの整備などに含めて、明石市からの要望として上げていくシステムを一考して欲しい。私自身も活用の検討委員会に出て、文化財保護の立場からお話をさせてもらっている。その辺の全体の調整システムを前提に 18 番は考えて欲しい。それからもう 1 点は、43 番の顕彰制度の確立です。市が顕彰すれば、県、国と次々に顕彰が進んでいく。そのように文化財関連の分野の顕彰制度が整備されている。例えば、伝統芸能団体などの顕彰について、年次が大きく影響している。市の顕彰を早くとっておけば、県のともしひの賞や国の地域文化功労表彰の受賞順位が早まるようになっている。市の顕彰がスタートであり、基礎自治体がきちんと顕彰しておれば、次の都道府県や国の評価を受けやすくなる。この枠組みの意味をよく汲み取って、43 番、文化財関係の顕彰制度をできるだけ早く確立して欲しい。

31、32、33 は地域計画のメンバーでは、なかなかやりにくい。最終的に 30 年度までにうまくいかないということであれば、26 年度後期も右欄のままの書き方でいいのかどうか、再検討する必要があると思います。31 番のように期間中検討とかという記載ではなく、要検討とか、当初計画通りにいかないという意味を表現する必要があると思います。そして、そういう表記を第 1 回地域計画の期中から書き始めておけば、第 2 回の更新地域計画の 31 年度以降の計画に、記載しやすくなるのではないか。

それから、あともう 1 点は DX の話がますます顕著になっている。今回の第 1 回地域計画では DX の記載が

ない。策定時には Chat GTP 等の取り組みの展開があまり出ていなかったように思う。現在は劇的に変化してきている。教育会はじめ、全課において、対応策が検討されてきている。後期にも一切記載がなければ、本計画の最終である 30 年度までには、時代遅れな計画となりそうである。その辺の対応策について事務局でも検討していただきたい。

加藤委員：先ほど森本副会長の話にもあったが、明石城の外堀の話について、私どもと連携させていただいているぶらり子午線観光ガイド連絡会にも話を聞いてみたい。観光ガイド連絡会も文化財ウォークの昨年度の解説をさせていただいた。今後も連携して文化財ウォークの方も協力していきたい。あと先ほど村上会長さんの発言にあった KPI の目標のところで 31 番の明石駅周辺の観光バスの大型バスの乗降場所を検討するということで、旅行ガイドさんからも話をいただきており、銀座通りのところが乗降されているところもある。われわれが設置するわけではないが、今後そういうかたちで乗降場所が設置されるようであれば、観光協会としてもこれを積極的に情報発信して重点地区における回遊性の向上に寄与していきたいと考えている。

吉野委員：25 番の財政確保、支援のところでクラウドファンディングとかふるさと納税の仕組みを利用してというふうな記載がある。この計画を作ったときよりも、今、また今後よりクラウドファンディングが身近に感じられるようになっていると思う。この会もそうだが、大切な文化財をしっかりと守っていく地域愛をもっている方もいると思うので、これがもうちょっと具体的に進められるようにならいいかなというところが一点である。それと、46 から 50 の歴史文化財を災害などから守る仕組みづくりを進めるというところで市議会の本会議質問のなかでもちょうど 6 月にこういった文化財をどうやって守っていくんだと、実態も含めて、どうやって進めていくかというご質問をさせていただいた。その中の一つで災害に対する取り組みはどうなんだというご質問もさせていただいた。文化財防火データの取り組みもご紹介しながらご答弁させていただいた。また、そういったポイントだけではなくて、もうちょっと日常的に何か出来ないだろうかというふうなところのご質問もさせていただいた。こういった防災意識というのを日頃からどういうふうに広げていけるだろうか、というところをもうちょっと積極的に進めていけるだろうかというところを感じている。

山下オブザーバー：私がやっぱり一番気にしてるのは明石城のことである。もともと明石城の樹木が 400 周年に向けてもう少し整備をしないといけないという話があった。あの時は村上会長も一緒にあって委員会をやっていた。それで、ある程度方向性としては場所を選んで自然遺産として保護するエリアと、しっかりと史跡として石垣とか環境を守っていって整備していく、そういう方針でやっていたが、実際施工する時にちょっと乱暴な切り方してたのは確かかなと思う。絶対切らなければいけない木と、こっからこんだけの何メートル以内全部切るっていうのが少し無理なところがあったのかなという気がする。このあたり、文化庁の石垣整備の手引書があるが、それには城跡の石垣と樹木の話をというので、そこにそういうのをやる時は市民の声をちゃんと聞いてやるべきと、市民にも広く公表してこんな風にやっていきますよと説明できるようになっていう風に文化庁の手引書に私が原稿を書いてある。神戸新聞にもそんな風に書かれていたが、あまりにも大がかりで、やりすぎなところがあったんじゃないかなっていう気がしている。県内に史跡指定してされている城跡は 22 箇所もある。その中で特に江戸時代の石垣でできた城って姫路城、赤穂城、篠山城、竹田城、洲本城、そして明石城、日本 100 名城に選ばれてる城。その中で唯一ここだけは市の管理じゃない城になってしまっている。それでいて環境としてまだ洲本城は三熊山っていうあの自然公園の中なので、あの自然を守らないといけないっていう反対意見もあるが、しっかりとエリアを決めて市が城跡らしくしていくって方針がある。明石の場合は公園ができる 100 年放置してたっていうのが大きい。特に文化博物館に隣接する箱掘りなんかそうだと思う。あのままの状態でいてもいいこと何もないと思う。そういうところはしっかりと県の方に対しても、いろんな委員会設置されてはいるんだろうが、やはりその環境としてどうかっていうところは県に対する要望としてしっかりと対応してもらう必要がある。公園緑地課もやる気はあるはず。快適な公園でないといけない。それは史跡としても一緒に、環境も守っていく、両立できると思うので、切り方はしっかりと検討して欲しいなと思っている。

村上会長：明石公園の管理については、私自身も 30 年ぐらい前ぐらいからずっと見ている。予算・人員数等、すごく変わっている。今も公園協会で働いてらっしゃる人は、昔と変わらず一生懸命仕事をされておりますが、30 年前と同じやり方は多分できない状況になっている。その状況を見ると、他の史跡と明石城跡との間で違いを感じていることがある。市が城跡の管理団体、管理者としてなってるところは意外に住民の方が入っている。ところが、明石城跡の場合は住民の入り方が一部になっていたように見える。現在、県立大学の高田先生たちが理解し、できるだけ住民の方々がいろんな活動に参加できるように一生懸命調整されている。しかし、昔から、100 年前から市民参加を促してきたところと、近年、参加の幅や深みが進化してきたところの違いがある。市民参加と管理の仕方など、計画段階においてこれまでの生い立ちも考慮に入れつつ明石城跡らしい在り方を考えるのが自然かと思います。

藤本委員：外堀の話の関連だが、例えば西の入口である、城下町の入口である姫路口門、手前に王子口門、それから京口

門や城下町の規模ももうひとつもわかりにくい。市の土地でないと看板は建てられないのか。

村上会長：頑張ったらできる。

藤本委員：お城の大きさが分かるから、面積的には姫路城より大きいんじょ？

村上会長：あの東西の大きさというのはこっちの方がすごい。

藤本委員：そういうことはPRしないといけないのではと思いました。

村上会長：あの、城跡の保護の長い歴史を見れば、臣下の方々が最初に動かれて、保護に結び付けられた。ただその代償が大きく、臣下以外の方々との間に段差できたことを考える必要がありますが、現在、一般の方々に興味持つていただくには、藤本委員のお話、それから森本副会長のお話等、それをベースにしてコツコツと魅力の発見に努める必要があると思います。普段の生活の中で、あ、ここが城の外堀のここの角かとかわかるような、頭の中にすり込ませる作業を子供の頃から仕掛ける必要があると感じている。その辺、藤本委員、森本副会長がいわれたように、長丁場になりますが、作戦を練っていただきたいと思っている。

最後に事務局から全体を通して思っておられるところありましたら発言願います。

池田課長：いろいろ議論ありがとうございました。今回、計画の見直しということで、ご提案させていただいているが、最終的にどのようなかたちにするのか、事務局の方でも十分検討して、あの軽微な改善、数字とかですね、出た本とかそういう事実だけを変えるのか、あるいはその事業内容の表現そのものまで変えていくのか、文化庁との再認定の問題もあるので、文化庁の方とも協議しながらどの程度まで修正するのかということについて、また事前にご相談したいと思う。

村上会長：文化庁において地域計画の制度導入を考えていた時、最初から完成形を急ぐと実態と乖離するので、2回目の地域計画策定時から実際に使える状態になればいいんじゃないかと考えておりました。委員の皆様方も事務局の実情報告を受けながら、この地域計画を完成に導けるよう、改善点を修正していただければと思います。第1回地域計画の後期計画の修正に向けてよろしくお願ひいたします。

3. その他

原口主任：今回のご議論を踏まえて、また今年度の最後に協議会のかたちで開催するか、それとも次年度の初期にというかたちにするか、今後また会長、副会長を含めまして協議させていただければと思う。

4. 閉会